

2-2 関係文書 「陶湘藏書購入に関する件」(翻刻)

(外務省外交史料館所蔵外務省記録 H 門東方文化事業関連ファイルより)

一、狩野直喜書信

拜啓、益御健勝忻賀之至ニ奉存候。サテ當研究所開始以來日尚淺ク有之候得共、漸次事務モ整頓シ、研究ノ基礎モ相立候事ト存候。サテ先般葉德輝、康有爲二氏所藏ノ圖書ヲ文化事業部ニ於イテ御購入ノ上、東京及京都ノ研究所ヘ御分配ノ由拜承之處、種々ノ相違ト故障之爲メ、其實現ヲ見ルニ至ラサリシ事、愈研究所開始サレ、書籍ノ必要ヲ感スルニツレ、彌殘念至極ニ奉願候。研究所經常費中、圖書費各壹萬圓ヲ計上サレ居候得共、一年購フ所ノ書籍幾モ無之、甚心元ナキ次第ニ有之、若一時ニ或ル「コレクション」ヲ購入シ、之レヲ藏儲スルヲ得ハ、之レニヨリテ經常費ノ足ラサル所ヲ補ヒ、誠ニ仕合ト存候。然ルニ過日北京滞在ノ文部省派遣海外研究員京都帝國大學文學部助教授倉石武四郎ヨリ、天津ノ藏書家トシテ有名ナル陶湘ト申スモノ、藏書ノ一部五百九十五種ヲ賣却致候希望有之由報知シ、且其目錄ヲ送り來候處、其書經史子集ニ涉リ、且彙刻書ノ幾ント總ヘテヲ網羅シ、又陶氏ノ藏書ハ精刻精勘本多キヲ以テ有名ナレハ、研究所ニ備付ケ候モノトシテハ尤適當カト被存候。其價格ハ三萬圓ト申候由ニ候カ、支那ニ於ケル或書籍通ノ評價ニヨレハ、決シテ高價トハ申サレザル由證言致候事ヲ承り候。尤之レヲ送クルニハ堅牢ナル箱ヲ作ラサルヘカラス。分量ヨリ相考ヘ候得ハ、運搬費モ相當ニ見積ラサルヘカラス、又此レニ關係シタルモノニ謝儀ヲ与ヘサルヘカラサレハ、書籍ノ一割位ハ別ニ之ヲ要スヘキ事カト相考候。要スルニ此ノ如キ「收藏」ヲ逸シテ他ニ取ラレ候事ハ非常ニ殘念ニ有之、何トソ當局ニ於イテ購入ノ事御詮議相願候。又右目錄ハ先方ヨリ當所ヘ送來候モノニツキ、一部ヲ寫シ服部理事長手許ヘ廻附致置候間、御一覽被下度、又右書籍ヲ當局ニテ御購入相成候節ハ、之レヲ二分スルハ面白カラス、此次ノモノハ京都研究所ヘ御下附相成度、此事ハ豫メ服部東京研究所長ノ諒解ヲ受置候間、右御含被下度相願候。猶京都研究所建築ノ件ニツキテモ鄙見申述度事有之、其内ニ上京親シク得貴意候得、書籍購入ノ事ハ之レヲ緩ニスレハ彼地ニ於イテ他ニ洩聞ヘ、故障ヲ生スル虞有之候間、不取敢書中如此。至急何分ノ御御返事御聞ノ程相願候。匆々不一。狩野直喜

坪上文化事業部長²⁸殿 七月一日
(文化事業部昭和四年七月四日(受領)の印アリ)

二、(電信案)昭和4年7月11日

件：陶湘氏藏書購入ノ件
宛：天津岡本總領事

²⁸坪上貞二(1884-1979)は大正・昭和前期の外交官、佐賀縣出身。東京高等商業學校を卒業し、明治42年に外務省入省。アジア局課長を経て、子爵岡部長景(1884-1970)の後を承け文化事業部長となる。のち拓務次官を経て、昭和10年に新設の滿州拓殖公社總裁をつとめ、昭和15年滿州國參議府參議、昭和16年には在タイ日本國公使館が大使館に昇格した時、初代の大使となった。戦後公職追放。

發：幣原大臣

暗第七四號

貴地在住支那人陶湘ノ藏書ヲ購入セシムル爲メ、狩野文學博士ヨリ在北平倉石帝大助教授ヲ貴地ニ遣ハシ調査セシムル筈ニ付、同氏調査ノ結果御聽取ノ上電報アリタシ。

三、(公信案) 昭和4年7月26日

文化一機密第一〇一七號 昭和四年七月拾六日

受信人名：在天津岡本總領事

發信人名：幣原大臣

件名：陶湘ノ藏書購入ニ關スル件

本件ニ關シ七月十二日附往電七四號ヲ以テ申進置キタル處、右ハ貴地在住陶湘氏ガ其ノ所藏圖書ノ一部五百九十五種ノ賣却ヲ希望シ居ルニ付、過般新設シタル東方文化學院京都研究所ニ於テ右藏書ヲ二萬弗乃至三萬弗見當ニテ購入シ度キ意嚮ヲ有シ、北京滯在中ノ文部省派遣海外研究員京都帝國大學文學部助教授倉石武四郎ニ依頼シ、右藏書ヲ檢セシメ、其ノ調査ノ結果ヲ待テ、購入方協議スルコトトシ度キ旨申出、既ニ倉石助教授ニ電報シタルヲ以テ、同助教授貴地ニ到着ノ上ハ、同氏ニ協力セラレ、右圖書ノ總冊數、帙數、印刷製本ノ良否、並ニ價格ノ點等ニ關スル見込ヲ同助教授ヨリ御聽取ノ上、其ノ大要ヲ當方ニ電報シ、詳細御郵報相成度。尚右藏書ハ事實前記京都研究所ニ於テ購入セントスルモノナルモ、支那現下ノ事情ニ鑑ミ、極ク内密ニ御取扱相成、又買方ノ名前等モ先方ニ知ラシメサルコトト致度。尚右書物購入方決定スルトキハ、表面貴館ニテ購入シ、本省へ送付ノ形式ヲ取ラルル様致度ニ付、御含置相成度此段申進ス。

四、岡本總領事電信 昭和4年8月1日着

昭和4 一一八三〇 暗 天津 一日前發 文化

本省八月一日後着

幣原外務大臣

岡本總領事

第二〇七號

貴電第七四號ニ關シ

倉石助教授七月二十六來津、二十七日ヨリ卅一日ニ亙リ取調ヘタル結果ハ、圖書ノ總冊數二萬四千六百十四冊アリ、帙數三千八百三十四帙ニシテ、印刷製本ハ孰レモ可良ナリ。右ノ外現在北平ニアルモノ約三百五十冊五十帙モ加ハル筈ニテ、價格三萬一千弗ニ折合ヒタリ（荷造費運賃保險料等ハ別ニ支出ヲ要ス）。荷造ハ數日內ニ完了スヘク、通關手續結了次第發送シ得ル様手續取り運ヒ濟ナルカ、賣手ハ荷物發送迄ニ代金ヲ受取度シト申出テ居ルニ付、購入方至急御詮議ノ上、代金電

送方御取計アリタキ趣ナリ。
支へ返電セリ。

五、(公信案) 昭和4年8月3日

文化一 私信 昭和四年八月三日

受信人名：京都 狩野博士

發信人名：坪上部長

件名：陶湘藏書購入ノ件

拜啓、陳者天津陶湘藏書購入ノ件ニ關シ、今般別紙ノ通り在天津總領事ヨリ電報有之候ニ付、目下當省ニ於テ購入手續中ニ有之候。右不取敢申進候。敬具。

六、(電信案) 昭和4年8月3日

件：陶湘氏藏書購入方ノ件

宛：天津岡本總領事

發：幣原大臣

暗第八〇號

貴電第二〇七號ニ關シ、御申越ノ書物代金三萬一千弗至急電送スベシ。

七、岡本總領事電信 昭和4年8月10日着

昭和4 一二三三三 暗 天津 十日後發 文化
本省八月十日後着

幣原外務大臣

岡本總領事

第二一四號

往電第二〇七號及貴電第八二號ニ關シ

圖書代金領收シ購入ヲ了セル處、右以外荷造諸掛リトシテ既ニ六百餘弗ヲ費シ、又今後積出シ迄ニ倉敷料及保險料(運賃ハ先拂トスル筈)トシテ約四百弗ヲ要スル見込ニ付、合計一千弗更ニ電送ヲ請フ。

八、岡本總領事電信 昭和4年8月21日着

昭和4 一二七七五 暗 天津 廿一日前發 文化
本省八月廿一日後着

幣原外務大臣

岡本總領事

第二一五號

貴電第七四號ニ關シ

圖書麥酒箱詰合計百八十八箱、北平公使館發、本省送り公用文書トシテ、無檢査通

關ノ手續ヲ了シ、八月廿日出帆、近海郵船南嶺丸ニテ積出セリ。運賃先拂神戸揚
トナリ居ルニ付、通關並荷受手續方、然ルヘク御配慮ヲ請フ。船荷證券郵送セリ。
支へ轉電セリ

九、(公信案)昭和4年8月23日

文化一第四五四號 昭和四年八月廿參日附

受信人名：河田大藏次官

發信人名：吉田外務次官

件名：書籍輸入ニ關スル件

今般當省が支那北平及天津に於て購入したる漢文書籍二萬四千九百六十四冊、三
千八百八十四帙を、麥酒空箱百八十八個詰とし、在支公使館より外務省宛發送し
たる趣、電報申上げたる處、右荷物は八月二十日天津出帆の近海郵船南嶺丸にて
積出し、同月二十四日神戸到着の筈にして、貴重書物少からざるに付、特別の御
詮議を以て簡易通關方至急神戸税關へ御通知相煩度、此段御依頼申進す。

十、(公信案)昭和4年8月24日

文化一 半公信 昭和四年八月廿四日

受信人名：京都市上京區田中大塚六ノ一 狩野直喜

發信人名：坪上文化事業部長

件名：陶湘藏書輸入ニ關スル件

拜啓、陳者今般天津及北平に於て購入したる陶湘の藏書は、麥酒空箱百八十八個
詰とし在支公使館より外務省宛發送し、八月二十日天津出帆の近海郵船南嶺丸に
て積出したる旨、在天津岡本總領事より電報有之候間、左様御了知相成度、尚右
荷物は船荷證券到着次第直に神戸上組合資會社に托して通關手續を了し、京都研
究所宛輸送せしむる筈に有之候。左様御承知置相成度、此段申進候。 敬具

十一、松浦嘉三郎致外務省文化事業部長坪上貞二書信²⁹ 昭和4年8月25日

拜啓、殘暑尚ほ難去御座候、時節柄御動履益々御清康と奉賀候。過般東上の節、
御邪魔致候際には御公務御多端之折柄にも不拘長時間御引見を賜はり御歡談を辱
く致こと満足之至と居存候。此れで貴部之御決心の程も充分に諒解致し、當方
でも今後益々研究に勇猛精進可致候。又過日來、在天津陶蘭泉氏藏書收買之件に就
きて、極めて御熱心之御盡力を賜はり、迅速敏捷に進行致し、既に廿日南嶺丸に積
込まれ、不日神戸陸揚げの運びとなり候趣、拜承致候。此れ實に敝學院に於ては
その基礎たりと可申もの、深く貴官等の御熱心なる御奔走を感謝致すものに有之

²⁹この書簡のみは「陶湘藏書購入に關する件」ではなく「東方文化學院雜件 / 京都研究所關係 / 研究設備關係」のうち「建築設計關係」ファイルに綴じ込まれている。

候。敝院に於ても狩野先生より既に研究員助手を召集せられ、到着次第速時整理に着手するの手順を決定致し居り候。唯だ二萬六千冊百八十箱と申し候大部の書籍故、目下置き場所に苦しみ居り候。多分支那哲學研究室や圖書館や各室に分配保存し置く豫定に有之、此の上は一日も建築物を進行せしめられたく切望の至りと存居候。京洛の地は既に漸く秋色を帯び、朝夕之涼味既に可掬あり、お暇の節には一度御入洛、當方研究員等と御會談の程希申上候。先右示教御願申上度、一書奉呈上候也。匆々不一。

松浦嘉三郎頓首

坪上部長殿

八月廿六日

岩郵書記官にも宜しく願上候。

十二、岡本總領事電信 昭和4年8月27日着

文化事業部第一課 昭和四年八月廿七日接受

機密第五四〇號 別紙添付

昭和四年八月二十一日

在天津

總領事 岡本武三³⁰（公印）

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

陶湘ノ藏書購入ニ關スル件

七月十六日附文化一機密第一〇七號貴信ニ關シ、不取敢八月一日發往電第二〇七號ヲ以テ回答申進置タル所、書價御送金ニ接シタルニ依リ、直チニ購入手續ヲ了シ、倉石助教授ニ於テ書冊ヲ一々點檢ノ上、紙包トナシビール箱一八七箇及同ジ大サノ木箱一箇合計百八十八箇ニ詰込ミ、當地海關通關ノ便宜上、公使館發本省送り公用文書トシテ公使館ヨリ支那側ノ無檢査通關證明書ヲ取付ケ滞リナク通關ノ上、八月二十日塘沽出帆、近海郵船南嶺丸ニテ發送セリ。荷物ハ神戸揚トナリ居リ、東京海上火災保險會社ニ對シ、價格三萬五千圓トシ海上保險（陸揚後七日間ヲ含ム又盜難ヲモ含ム）ヲ附シタリ。茲ニ船荷證券及海上保險證券各正本一通送附スルニ付、御査収裏書ノ上、京都研究所ニ回附シ、荷物御受取相成様、至急御取計相成度シ。又御參考ノ爲荷物各箱重量表一通添付ス。尚船賃ハ先拂トナシ置キタルニ付、右支拂ニ關シテ近海郵船會社東京支店ト可然御接洽相成度シ。

右往電第二二七號ニ關連シ申進ス。

添付書類

一、船荷證券

一、海上保險證券（何レモ英文）各一通

³⁰岡本武三は、在長沙領事代理（大正二年）、在芝罘領事（大正五年）、駐天津總領事の後、在イラン特命全權公使（昭和八年）に歴任。昭和十三年東亞研究所が設立されると、その理事となり、印度、ビルマ班（第一班）、西アジア班（第二班）、英國班（第三班）を含む第五部の部長を兼ねた。

一、積荷各個重量表

十三、岡本總領事電信 昭和4年8月29日着

文化事業部第一課 昭和四年八月廿九日接受

機密第五四三號 別紙添付

昭和四年八月二十二日

在天津

總領事 岡本武三（公印）

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

陶湘ノ藏書購入ニ關スル件

本件ニ關シ八月二十一日附機密第五四〇號拙信ヲ以テ、船荷證券及海上保險證券各一通及送付置タル所、右各證券副本茲ニ送付ス。御查收ノ上可然御取計相成度シ。

添付書類

船荷證券 二通

海上保險證券（各副本）一通

十四、（公信案）昭和4年8月30日

文化一 半公信 昭和四年八月卅日

受信人名：京都市上京區田中大堰六ノ一 狩野直喜

發信人名：坪上部長

件名：陶湘藏書購入ノ件

拜啓、陳者本月二十四日附拙信ヲ以テ申進置候陶湘藏書麥酒空箱詰百八十八箇ハ既ニ神戸到着ノ筈ニ候。本月二十一日附ヲ以テ天津總領事ヨリ右船荷證券竝ニ海上保險證券ヲ京都研究所ヘ回附相成度趣ヲ以テ當方ヘ送附越候間、右茲ニ轉送ニ及ビ候ニ付、御查收ノ上貴方ニ於テ該荷物引取方御手配相成度。尚通關手續及運送等ハ神戸市濱邊通四丁目上組合資會社ニ取扱ハシムルヲ最モ便利ト愚考セラレ候間、必要ニ依リテハ人ヲ同會社ニ派シ、諸事御打合相成度。尚ホ南嶺丸船賃ハ當部ニ於テ近海郵船會社本店ニ直接支拂フコトニ同社ト打合置候ヘ共、神戸貴所間ノ輸送ニ要スル諸費用ハ一時貴方ニ於テ立換御支拂ノ上當方ヘ御請求相成度、此段申進候。敬具。

追テ右荷物神戸税關簡易通關方大藏省ヲ經テ同税關ヘ照會致置候。又上組合資會社ヘハ當部岩村書記官³¹ヨリ同社員木下ナル者ヘ通知致置候間、右御含相成度。

³¹岩村成允。大正・昭和期の外務官僚。南京、鐵嶺の領事などを歴任後、書記官として外務省對支文化事業部に勤務、東方文化事業の實務に携わった。昭和七年（1932）六月から約半年間、歐米各國に於ける東方文化研究の狀況等を調査するため渡航し、「歐米諸國に於ける東洋學術研究の現状」の報告を行った。繼いで停年により退官したが、引き続き囑託として文化事業部に留まった。著作に『安南通史』等がある。

此段申添候。

(船荷證券(正本)へ外務省ノ印ヲ捺シ海上保險證券(同)及積荷各個重量表ト共ニ各一通添付)

十五、(公信案)昭和4年8月30日

文化一 半公信 昭和四年八月卅日

受信人名：近海郵船會社

發信人名：外務省文化事業部

件名：(外務省公用文書運賃支拂ニ關スル件) 陶湘藏書購入ノ件

拜啓、陳者本年八月二十日塘沽出帆ノ貴社汽船南嶺丸ニ積込ミ發送シタル在支公使館發外務省宛書籍百八十八箱ノ塘沽神戸間運賃二百四十四弗四十仙ハ、當方ニ於テ貴社へ支拂フベキニ付、貴社神戸支店ニ對シ船荷證券引換ニ該荷物引渡方御通知相成度。此段申進候。敬具。

十六、岡本總領事電信 昭和4年9月2日着

文化事業部第一課 昭和四年九月二日接受

機密第五五〇號 別紙添付

昭和四年八月二十二日

在天津

總領事 岡本武三(公印)

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

陶湘ノ藏書購入ニ關スル件

本件ニ關シ、七月十六日附文化一機密第一〇七號貴信御來訓ノ趣敬承、倉石助教授ニ於テ取調ヘタル本件圖書ノ総册數及帙數ハ八月一日發往電第二〇七號ヲ以テ及回答置タル通ナル所、其後同教授精査ノ結果ハ前顯往電報告ヨリ増加シ、総册數合計貳萬六千九百九十八册トナリタリ。圖書目錄其他詳細ハ倉石助教授ヨリ當館ニ提出セル別紙報告寫ニ就キ御査閱相成度、尚現在北京ニ在ル分(別紙寫書目総單中括弧ヲ附シタルモノ)ハ八月二十一日附機密第三四〇號拙信通知ノ八月二十日出帆南嶺丸積出合計百八十八箱中ニ含マズ。倉石助教授ニ於テ責任ヲ以テ別途送付方取運ブコトト相成居リ、其詳細ハ同助教授ト京都研究所ト直接打合スル筈ナルニ付、右御了承相成度シ。

尚書價ハ貴電第八〇號御送金ノ通、銀參萬壹千弗支拂濟ニテ、又諸掛ハ貴電第八二號御送金銀壹千弗中ヨリ銀九百九拾五弗貳拾八仙ヲ要シタリ。諸掛中主ナル使途ハ箱代、荷造費、運搬人夫賃、倉庫倉敷料、海上火災保險料等ニシテ、荷造ハ最モ綿密トナシタル爲、包裝用紙代及雇人費ニ多額ヲ要シタル次第ナリ。詳細ハ第二期分前渡金出納計算書附屬證憑書類ニ就キ御了悉相成度。

十七、〔倉石武四郎報告〕

昭和四年七月廿六日、東方文化學院京都研究所長狩野直喜博士ノ依囑ヲ蒙リ天津特別一區十號路陶氏蘭泉所藏彙刻類書籍調査ノ爲來津、助手トシテ京都帝國大學院學生水野清一ヲ同伴セリ。コノ項ノ書籍ハ曩ニ陶氏ヨリ其ノ書目ヲ提出シタルニヨリ專ラ其ノ書目ヲ基準トシテ調査ヲ開始シタルガ、元來其ノ書目ナルモノハ極メテ杜撰ニ係リ、誤謬重出ノ條一二ニシテ止マラズ、且ツ藏書中ニナキモノヲ載セタルアリ、藏セルモノニシテ度置紛亂シテ遂ニ所在ノ發見シ難キモノアリ。調査數日ニシテ遂ニ前目中ノ

粵刻廿四史 天都閣藏書 許學叢刻 十三經解詁
荒政叢書 葛氏金石叢書 四銅鼓齋論畫叢刻
纂喜廬叢書 冒氏叢書 胡氏葆樸齋 何夢華叢書
倭文端公遺書 鄭小谷全書 傲居遺書
蔣侑石遺書 卅補齋醫書 徐靈胎醫書 沈氏尊生書
甘肅通志

ヲ削除シ、之ヲ替フルニ

校礼堂全集 西莊始存稿 西泚詩文集 周礼軍賦說
十筌齋文集 柴辟亭詩集 夢陔堂詩文集 文說義府字詁合按
詩觀三集 潘氏家集叢刻 洞簫樓誌紀 碧龕詞樂府餘論
鹽邑志林

ヲ以テスルコトトシタリ。抑々コノ彙刻書タルヤ陶氏四十年ノ苦心ヲ以テ聚集シタルモノニシテ、就中指海二十集、式訓堂三集、三影閣叢書、柚堂全集、洪氏傳經堂叢書、宋氏叢書十三種ノ如キ、外間殆ンド傳本ヲ見ザルモノアリ。殊ニ乾嘉諸儒ノ述作ハ髮賊ノ亂ヲ經テ燒毀殆ンド盡キ、其ノ少見ナルト學術上ノ價值ニ富メルトニ於テ昂價ナルコト宋元板ニ亞ガントスルモノアルニ當リ、コレラノ稀觀書ヲ具スルハ本叢刻ノ誇トスルニ足ル所ナリ。而カモ前掲粵刻廿四史以下ノ書ハ概ネ新刻ニシテ容易ニ購補ス可キノミナラズ其ノ多數ハ學術上ノ價值極メテ乏シキモノアリ。之ニ反シ校礼堂全集等ハコレモ其ノ稀觀ナルト價值ニ富メルニ於テ指海等ニ比肩ス可キモノアリ。彼ヲ以テ此ニ易フル、ソノ得失自ラ知ル可キノミ。ナホ

粵刻通志堂經解 珠叢秘錄 秘冊彙函 蘇齋叢書
續古逸叢書 潘刻五種 十六家墨說 積學齋 鄒齋
懷幽雜著 誦芬寶初二集 宸翰廬 玉簡齋 雲窗
雪堂 吉金龕 隨巷叢書 又續 鳴沙石室佚書

ハ現ニ北京ニ在リテ一時調査ヲ加ヘ難キモ原來コレラノ書ハミナ一定ノ性質ヲ具シ、深く研究ヲ要セザル種類ノモノナレバ、今此ヲ以テ第二次ニ北京ヨリ發送スベキモノトシテ冊數ヲ暫ク加算セズ、專ラ天津ニ現存セルモノヲ詳校スルニ、凡ソ

經部 十三經注疏以下三十八種 二千一百七十六本

史部 二十四史以下二十八種 三千二百四十九本

子部 十子全書以下二十七種 一千七百四十二本
 集部 漢魏六朝百三名家集以下三十一種 一千四百八十六本
 叢刊 儒學警悟以下一百七十種 八千八百八十九本
 影仿 澤存堂五種以下十一種 三百十二本
 輯佚 玉函山房叢書以下十種 二百九十六本
 郡邑 涇川叢書以下卅五種 二千二十一本
 一姓 二程遺書以下卅八種 七百二十七本
 一人 黃石齋經學九種以下一百五十六種 三千七百三十九本
 地志 大清中外一統輿圖以下三十種 二千三百六十一本
 共 五百七十四種 二萬六千九百九十八本

ヲ得タリ。裝訂ハ極メテ佳良ニシテ殆ンド書價ニ過グルモノスラアリ。但シ時ニ應ジテ帙ヲ用フルモノアリ、夾板ニヨルモノアリ、又全クコレヲ具ヘザルモノアリ。コレヲ套數トシテ算出スルコトハ不可能ナルモ、包裹ノ數ヨリシテ準ジ得ルモノトセバ、實ニ三千六百〇七箇ノ多數ニ上レリ。書價ハ當初狩野所長ヨリ申請サレタルママニシテ異同ナキモ書目ヲ更定セル結果トシテハ、幾分安價トナレリト云フモ可ナリ。點書ノ終ルヲマチテ直ニ裝書ニ着手シ、コレ亦前後五日間ヲ費シテ麥酒箱一百八十七箇、麥酒箱ニ畧々等シキ書箱一箇、合セテ一百八十八箇ニ分裝ヲ了セリ。コレガ搬出ニツイテモ細心ノ注意ヲ拂ヒ、表面上ハ英租界金城銀行ニ抵當ノ形式ヲトリテ同銀行ニ連接セル通成貨棧ニ運搬シ改メテ同處ヨリ三井洋行ノ手ニヨリテ積出ス可キ準備ヲ具ヘタリ。北京ニ在ル十九種ハ北京ニ歸レル後再ビ之ヲ調査シ更ニ便宜ノ方法ヲ講ジテ逐次發送セントス。ナホ詳細ナル書目竝ニ箱數、包裹數ノ對照表ハ直ニ京都研究所ニ宛テ發送、開箱竝ニ整理ノ基準タラシメムトス。

書目總單 詳目另册

經部 十三經注疏以下共卅九種 内除(通志堂)一種後寄外 計二千一百七十六本
 史部 二十四史以下共廿八種 計三千二百四十九本
 子部 十子全書以下共二十八種 内除(十六家墨說)一種後寄外 一千七百四十二本
 集部 漢魏百三名家集以下卅一種 計一千四百八十六本
 叢刻部 儒學警悟以下共一百八十二種 内除(秘册策函)(珠叢別録)(潘刻五種)(積學齋叢書)(鄒齋叢書)(懷幽雜著)(誦芬室初二集)(宸翰樓叢書)(玉簡齋)(雲窗叢刻)(吉金齋)(雪堂叢書)共十二種後寄外
 計八千八百八十九本
 影仿部 澤存堂五種以下共十五種 内除(隨菴叢書)(隨菴續編)(續古逸叢書)(鳴沙石室佚書)四種後寄外 計三百十二本
 輯佚部 玉函山房叢書以下共十種 計二百九十六本
 郡邑部 涇川叢書以下共卅五種 計二千〇二十一本
 一姓所著 二程遺書以下共卅八種 計七百二十七本
 一人所著 黃石齋經學九種以下共一百五十七種 内除(蘇齋叢書)一種後寄外 計三千七百三十九本
 地志部 大清中外一統輿圖以下共卅種 計二千三百六十一本
 統共五百九十三種 除後寄十九種外實五百七十四種 計書 貳万陸千玖百玖十捌本

十八、（公信案）昭和4年9月4日

文化一 半公信 昭和四年九月四日附

受信人名：京都帝國大學文學部内東方文化學院京都研究所 所長 狩野直喜

發信人名：坪上部長

件名：陶湘藏書購入ニ關スル件

拜啓、陳者陶湘藏書購入ノ件ニ關シ、在天津岡本總領事ヨリ本件ニ關スル倉石助教授ノ報告添付別紙ノ通來信有之候ニ付、茲ニ右寫及送付候間御査閲相成度、此段申進候。敬具。

（別紙トシテ岡本總領事發機密第五五〇號副本及倉石助教授報告寫其儘添付發送ノコト）

十九、堀内謙介臨時代理公使書信 昭和5年1月24日着

機密第四號

昭和五年一月六日

在支那

臨時代理公使 堀内謙介³²（公印）

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

陶湘ノ藏書購入ニ關スル件

客年八月二十二日附、在天津岡本總領事發閣下宛往信機密第五五〇號ニ關シ、東方文化學院京都研究所ガ當地方面ニ於テ購入セル陶湘ノ藏書中百八十八箱（書目ハ前記機密信添附別紙參照）ハ曩ニ天津ヨリ送附濟ナル處（八月二十一日附同總領事發閣下宛往信機密第三四〇號參照）、右殘部全部四箱（書目ハ前記天津發閣下宛機密信第五五〇號別紙參照）ハ今般在當地文部省海外研究員倉石助教授ニ於テ取纏メ、當地通達公司扱客年十二月三十一日天津出帆ノ近海郵船景山丸ニ積込ミ當館發外務省宛書類トシテ發送シ、陸上地ハ神戸トスル様同助教授ト京都研究所トノ間ニ打合セ濟ナル趣ナリ。尚今回ノ四箱分購入代金ハ曩ニ一括支拂完了濟ナル處、今回ノ運送費ハ追テ横濱正金銀行ヲ通ジ外務省文化事業部ニ請求方取計ヒタル趣ニ付、右御了承相成度。

本信寫送附先 天 津

二十、通運公司書信 昭和5年1月25日接受

東京

外務省文化事業部長坪上貞二殿 通運公司北京支店

³²堀内謙介（1886-1979）大正、昭和期の外交官。青島總領事、駐英國一等書記官、パリ不戰條約全權隨員を経て、昭和四年四月中國大使館參事官として北京に赴任。同年、芳澤謙吉公使が駐フランス大使に轉出したため、その後を承けて在中國臨時代理公使を勤めていた。のち外務次官、在米特命全權大使を歴任。『堀内謙介回顧録』（1979）がある。

神戸揚御荷物發送之件

拜啓 毎々御引立を蒙り奉謝上候。陳者去る拾二月二十六日附を以て當地日本公使館喜多書記官殿より御下命被下候京都帝大文學部内東方文化學院京都研究所送りの御荷物、去る三十一日午前十時天津港出帆之景山丸へ積込を了し候處、丁度新年のため休日續き、本日當地正金銀行支店經由にて右引替證正副二通共爲替金銀貳拾貳弗五十四仙也（別紙之通り）と共に發送仕り申上候條、不日貴地正金銀行より御通報あるべきに付、其節金額御拂込の上、BL³³御入掌の上、早速神戸港卸船會社より御荷物の受取致し度候。右御案内まで、如斯御座候。早々不一。

二十一、（公信案）昭和5年1月24日

文化一 第五六號 昭和五年一月廿四日

受信人名：京都帝國大學文學部内東方文化學院京都研究所長 狩野直喜

發信人名：文化事業部長 坪上貞二

件名：陶湘藏書輸入ニ關スル件

曩ニ天津ニ於テ購入シタル陶湘藏書殘部四箱ヲ在北平公使館ヨリ當省宛發送シタル□□³⁴ニ要スル北平神戸間運送費銀二十二弗五十四仙邦價換算額金十七圓七錢也ヲ、横濱正金銀行ヨリ當方へ請求アリタルニ依リ、其支拂ヲ了シ、茲ニ別紙船荷證券一通及送附了付御査収ノ上、右荷物ヲ日本郵船會社神戸支店ヨリ御受取相成、神戸貴所間ノ輸送ニ要スル費用ハ一時御立替御支拂ノ上、右ヲ北平神戸間ノ輸送費ニ含メテ當方へ御請求相成度。尚陶湘藏書殘部輸送ニ關スル在支那代理公使發外務大臣宛書信寫同封ヲ以テ送附スルニ付、右ニ依リ委細御承知相成度、此段申進ス。

追テ正金銀行「メモ」ハ御請求ノ際證憑書トシテ添附御送付相成度。

一、船荷證券及正金銀行「メモ」各一通、其儘添附發送ノコト

一、在支代理公使發機密第四號寫作成ノ上添附

二十二、松浦嘉三郎致岩邨書記官書信 昭和5年1月24日

昭和五年一月廿四日

東方文化學院京都研究所

松浦嘉三郎

岩邨書記官殿

拜啓 前畧舊臘末在北平日本公使館より貴部宛を以て書籍入木箱四個送達致したる筈に有之と存候。そは昨夏貴部が敝處のために特に購入せられたる陶氏藏書の殘部に係るものにして、前次天津にて購入交渉に當りたる倉石武四郎君が前例に按じて公使館に依願して貴部に向け發送したるものに有之候。然る處、爾來迄于

³³bill of lading（船荷證券）の略。

³⁴原文、インクの滲みで讀めず。

今既に約一ヶ月経過致したるも未だ貴部より何等の御通知に接せず、或ひは未だ到着せざるに由るや又何か運搬上故障を発生したるに由るか、その事情若し貴部に於て判明致し候こと御尋ね申上候間、何分の御消息を御返信賜はり度、此段願可申上候。匆々不一。

二十三、狩野直喜致外務省文化事業部長坪上貞二書信 昭和5年2月22日

第三四號

昭和五年二月二十二日

東方文化學院京都研究所

主任 狩野直喜（公印）

外務省文化事業部長坪上貞二殿

拜啓貴部ヨリ本所へ御寄贈被下候天津陶氏藏本中未着ノ分書籍四箱ハ本日無事到着致候。就テハ神戸ヨリ本所迄ノ運賃拾八圓參拾壹錢也御申越ノ通立替支拂ヲ了シ置候間、宜敷御取計被下度、別紙領收證相添此段御依頼申上候也。

二十四、（公信案）昭和5年3月7日

文化二 第三六五號 昭和五年三月七日附

受信人名：京都帝國大學文學部内東方文化學院京都研究所長 狩野直喜

發信人名：文化事業部長 坪上貞二

件名：陶湘藏書輸送運賃ニ關スル件

本月二十二日附第三四號ヲ以テ陶氏藏書未着分四箱ニ對スル神戸ヨリ貴所迄ノ運賃御立替ノ上領收證添付御請求ノ□□□、茲ニ金拾八圓參拾壹錢也、當方ヨリ支出ノ上、別途當省會計課ヨリ支拂通知書ヲ以テ送付セルニ付、御查收相成度、此段申進ス。

追テ客月二十四日附文化一普通第五六號ヲ以テ申進シ置キタル當部ニ於テ一時支拂置キタル北平神戸間ノ運賃銀式十式弗五拾四仙、此換算邦貨金拾七圓七錢ハ曩ニ御送付ニ及ニ置キタル正金銀行「メモ」添附、更ニ御請求相成度。

二十五、狩野直喜致外務省文化事業部長坪上貞二書信 昭和5年3月4日

第三六號

昭和五年二月二十二日

東方文化學院京都研究所

主任 狩野直喜（公印）

外務省文化事業部長坪上貞二殿

拜啓昨年御寄贈相成候天津陶氏書籍目錄作製提出致候間御查收被下度候也。

二十六、松浦嘉三郎致外務省文化事業部長坪上貞二書信 昭和5年3月11日

昭和五年三月十一日

東方文化學院京都研究所

松浦嘉三郎拜

拜啓時下御清祥ノ段奉賀候。陳者三月七日貴下發狩野博士宛の陶湘藏書輸送運賃に關する貴信文意に關して敝所に於いは種々推考せしも尚ほ諒解致し兼ね、大いに困難致し居り候。そは最後の「追て書」の中にある「客月廿四日附文化一普通第五六號」の手紙を小生が狩野博士の御依頼により保管致し居りしも紛失致したる爲め七日付貴信の「追て書」の意味諒解致し兼ねるために有之候。就いては小生より今一度貴下を煩はし「客月廿四日附文化一普通第五六號」の手紙の内容を聞くやう依頼され申し候間、甚だ御迷惑ながら該信の寫しを御送付願度、乍恐入候御依頼申上候。此段御願申上候。匆々不一
坪上貞三（ママ）様 侍史

二十七、（公信案）昭和5年3月24日

昭和五年參月廿四日附

受信人名：京都帝國大學文學部陳列館内東方文化學院京都研究所 松浦嘉三郎

發信人名：坪上外務省文化事業部長

件名：公信寫し送附ノ件

拜復、益々御清穆奉賀候。陳者過日御照會ニ係ル客月廿四日附文化普通第五十六號寫一通別紙ノ通及御送付候條、御查收相成度、此段申進候。敬具。

（別紙寫一通至急添附發送ノコト）

二十八、狩野直喜致外務省文化事業部長坪上貞二書信 昭和5年8月26日

第三四號

昭和五年八月二十六日

東方文化學院京都研究所

主任 狩野直喜（公印）

外務省文化事業部長坪上貞二殿

拜啓貴部ヨリ曩ニ天津ニ於テご購入相成タル陶湘藏書殘部四箱ヲ在北平公使館ヨリ貴部宛發送サレタルニ關シ、右ニ要スル北平神戸間運送費ヲ横濱正金銀行ヨリ貴部へ請求有之候處、直チニ御支拂有之候ニツイテハ、來示ニ從ヒ先般御送被下候「メモ」ヲ添附シ、別紙請求書提出候也。

第三四號ノ二

昭和五年二月 日

東方文化學院京都研究所

主任 狩野直喜

外務省文化事業部長坪上貞二殿

拜啓、此度貴部ニ於テ購入サレタル天津陶湘藏書殘部四箱ノ運送費ニツキ、神戸
京都間ノ分ハ、別ニ昭和五年二月二十二日第三四號ヲ以テ請求致候處、北平神戸
間ノ分銀二十二弗五十四仙邦貨換算額十七圓七錢也、右横濱正金銀行へ御支拂被
下度、此段及請求候也。